

令和7年度第3回武蔵野市農業振興基本計画策定委員会 会議要録

1 日時 令和7年8月27日（水曜日）午後2時00分

2 場所 武蔵野市役所西棟8階813会議室

3 議事

- 1 前回委員会の振り返りと今回委員会の到達点について
- 2 農業振興基本計画策定に係るアンケート調査の集計速報について
- 3 農業振興基本計画策定に係る意見交換会の開催結果について
- 4 基本方針及び基本施策等の検討について
- 5 その他・事務連絡について

4 出席委員

委員	長	淵野雄二郎	委員	佐々木憲一
副委員	長	後藤幸治	委員	榎本吉恭
			委員	中村健二
委員		森田茂紀	委員	平野優美
			委員	田川良太

5 欠席委員

委員	相原宏次
委員	八島新平

6 委員以外の出席者 なし

7 事務に従事した職員

課長	小池鉄哉
課長補佐	合田宇宏
主任	助川瑞樹
主任	森麻衣子
会計年度任用職員	浅賀恵津子

(1) 前回委員会の振り返りと今回委員会の到達点について	
	<p>前回委員会では、本市の農業の課題について議論した。今回委員会では、前回の議論、アンケート調査の集計速報、計画策定に係る農業者との意見交換会の結果を踏まえて、農業振興基本計画の全体構成・基本方針・基本施策の検討を行い、さらに具体的な施策・目標値といったところまで議論できればと考えている。</p>
(2) 農業振興基本計画策定に係るアンケート調査の集計速報について	
	<p>資料に基づき、事務局より説明を行った。</p> <p>[質疑応答]</p>
委員	アンケート結果を公開する予定はあるか。
事務局	農業振興基本計画の冊子に掲載する形で公開する予定である。
委員	アンケート結果の掲載にあたっては、回答は構成比が高い順番に記載されるとわかりやすい。
事務局	今回の配付資料は速報版であり、冊子に掲載する際は意見を参考に読みやすい形で提供することを検討したい。
委員	<p>農業者アンケートの結果では、農業を継続することへの意欲があるものの、後継者の不在に悩まされていることがうかがえる。これを行政が支援する具体的な施策が必要である。</p> <p>また、販売方法について、直売所に力を入れたいという回答が一番多い。市内を歩く際に、ここに直売所があると一目でわかるようなものを整備し、直売所を広く認知してもらうような支援が必要である。</p>
委員	農業を続けていくことに使命感を持っている一方で、後継者がいないことが原因で農地が減少してしまうことは避けなければならない。後継者がいる農業者については健全な経営を継続できるよう支援し、後継者がいない

	<p>農業者については地域全体で協力してその農地を守って いけるような仕組みが必要だと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>市内の農業者は、先祖代々守ってきた農地を何とか残 していこうという農業者が非常に多いことがアンケート 結果から読み取れる。</p> <p>一方で、その思いを市民が理解できているかという と、アンケート結果ではそのような回答は少なかったよ うに感じる。新鮮な野菜を食べられることへの感謝はあ るものの、農地を残すことと繋がっていないように思わ れる。</p> <p>この計画には、農業者と市民との意識のずれを合わせ ていけるようなものを組み込むべきかと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>予算や人員が限られている中で、武蔵野市の農業振興 への取り組みは非常に高く評価できると感じている。</p> <p>私見だが、農地というのは、いかに面積を残すかとい う視点ではなく、農業者それぞれの思いをいかに引き継 いでいくかという視点が必要だと思っている。</p> <p>市民のアンケート結果からは、新鮮で安全な野菜が市 民に供給されることが非常に大事だと感じている方が多 いように思う。しかし、どこで（場所）・いつ（時期） ・何が（品目）購入できるのか、十分に周知されていな いように感じる。例えば、東小金井駅の前にある野菜の 販売所は結構な賑わいがある。駅前という人々が行きや すい場所に販売所があり、それが市民に周知されている ことが、賑わいを生んでいるのだと思われ、このような 形が目標となるのではと考えている。</p> <p>また、武蔵野市の農業者は学校給食に農産物を供給す ることに非常に力を入れており、高く評価されている。 これをもっと宣伝すべきだと思うし、教育の課程に組み 込むべきだと思う。子どもたちが、給食で食べたこの野 菜は市内のどこで作られたものかを学校で学び、家族に その話をする、ということが武蔵野市の農業の将来を作 っていくように思う。</p> <p>話が変わるが、農業者と市民との意識のずれは、獣害 対策で表れているように思う。例えば熊の被害が全国的 に見られるが、その実情を知って理解することで、農業</p>

	<p>者と市民との意識が合っていくのではと考える。</p> <p>武蔵野市の農業ということに限定する必要はなく、農業・農地が生活にどのような恩恵をもたらしているのか、どういう役割を果たしているのかということに関して、もっと積極的に宣伝していく必要があると感じた。</p>
副委員長	<p>農業者としての意見を述べると、アンケート結果からわかるように、現状を維持することで精一杯という農業者が大部分を占めているように思う。販売方法を変えることで農業経営に良い影響があるのではとの意見が出たが、庭先販売のみの少量を生産されている方が少ない状況で、難しさを感じる。</p> <p>市民の意識という点では、農業者の苦労を理解してもらえていないと感じることは確かにある。農業・農地についての周知を増やしていかなければならないと思う。</p> <p>農業ボランティアに関心がある方は少なくなく、ボランティアに参加することで農業を身近に感じてもらえるきっかけになるのではと思う。市内にこれだけの農地があって、農業者がどのような苦労があるのか、市が周知に力を入れていくことが望ましい。</p>
委員	<p>農地の保存は、相続税での苦労があり、難しさを感じている。JA青年部に所属し、市に要望書を出すことや議員向けに勉強会を開くことなどしているが、簡単に税制が改正されるわけではない。将来どれだけの農地を残すことができるのか、不安に思うところである。</p>
委員	<p>60～80代の方が多く、後継者がいない状況で相続が発生してしまうと、その農地を残していくことが難しい状況であることを、もっと理解してもらい、税制の改正であったり、何か支援であったり、何とかしてもらえればと思う。</p> <p>また、直売所について、それぞれの農業者で販売する時期が異なり、通年で販売している直売所は少ない。このため、費用をかけて直売所を整備する農業者が少ないというのが実情である。</p>
委員	<p>直売所の整備については、市がユニットのようなもの</p>

	<p>をつくって農業者に貸与するような仕組みを想定して提言した。農業者が個々に整備することは費用対効果を考えて難しいと思うが、市がパッケージであったりユニットであったり何かしら統一感があるものをつくることができないかなと考えた。武蔵野市は少量多品目を扱う都市型農業であり、農業者が個々に動くことより、市内全体で動くことで、何か新しい価値が生まれるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>貴重な御意見だと思う。農業者が個々に動いていても将来の農業がどう残っていくのか不透明だが、市内全体で、市民が支援していくような動きを生み出すことができると理想的だと思う。</p>
(3) 農業振興基本計画策定に係る意見交換会の開催結果について	
事務局	<p>事務局から説明。</p> <p>当日参加した副委員長、●●委員、●●委員から、感想等をいただきたい。</p>
副委員長	<p>若い農業者が多く参加し、先輩の農業者と活発な議論ができていた。</p> <p>人手が増えるとありがたいという意見がある一方で、家族ではない誰かが関わってくることとなると、ボランティアでは一体どんな方が来てくれるのだろうかという不安に思うという意見も少なくなかった。これには、市のような信頼できる組織がボランティアを紹介・あっせんしてくれると安心できる。また、ボランティアの育成が大事であることと合わせて、受入側が勉強して体制を整えることも大事であると思う。</p> <p>また、ブランド化（高付加価値化）についても意見がでていた。市内産農産物のどこに価値があるのかというと、鮮度が良いところである。農業者が市内の消費者に向けて出荷し、市内で味わってもらうことこそが、一番のブランド化なのではと思う。市外に向けたブランド化は、生産量の限度があって難しいという側面もあり、学校給食で子どもたちに市内産農産物を味わってもらうことや、直売所で市民に購入してもらうことが良いのかな</p>

	<p>と思う。</p>
委員	<p>学校給食の市内産農産物の使用率について、重量ベースの目標値である35%に対して、現在は22%ほどで、これをさらに上げていくには、学校給食に出荷している農業者が所有する農地では足りないように思う。農地貸借を効果的に活用することで市内産農産物の使用率を上げていくことは可能かもしれない。</p> <p>また、ブランド化については、なかなか難しいように思う。市民アンケートの結果では、JA武蔵野新鮮館やアンテナショップ麦わら帽子で市内産農産物を購入している方の割合がごく少ない。まずは市内に向けてどうアピールしていくかを考えることが課題ではないかと思う。</p>
委員	<p>まず、こういう機会が設けられているということに非常に大きな価値があると思う。皆さんが活発に意見を出されていた。</p> <p>学校給食の市内産農産物の使用率について、いかに前向きに動いていくかの評価基準としてあるべきで、従来の重量ベースだけではなく、カロリーベース・金額ベース等の評価基準を増やして、農業者が達成に向けて前向きな気持ちになれるようにすべきだと思う。</p> <p>また、援農ボランティアについて、教授として学生の実習をどのように年間プログラムに組み入れていくかを考える際に、季節のことや他のプログラムのことなど様々な要素を考えてプログラムを作成することが非常に大変で、これと同じように、援農ボランティアを受け入れる農業者が自分の作付けスケジュールを考えながら受入時期を考えることはとても大変だと思う。このように、受け入れる農業者の負担をいかに減らすことができるのかを考えることも重要だと思う。</p>
委員	<p>●●委員と同様、農業者の方々に集まっただき、生の声を聞くことができたことに大きな意義を感じた。農業者それぞれで同じ方向を向いてはいるけれども考えていることは様々あり、農業への思いをそれぞれ強く持っている。それぞれの農家が持つ考えや思いを、みんなと一緒にやっていくと、どのような相乗効果が生</p>

	み出せるのか。この計画で目に見える形にできれば理想的だと感じた。
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局としても、アンケート調査だけでは得ることのできない生の声を聞くことができ、非常に価値がある懇談会となった。</p>
(4) 基本方針及び基本施策等の検討について	
事務局	資料に基づき、事務局より説明を行った。
委員	<p>事務局に関わる立場から、提案がある。</p> <p>委員の皆さんで議論していただくにあたって、柱立てがあると議論がしやすいかと考え、参考資料として追加で資料を配付したいがよろしいか。</p>
委員長	承知した。
事務局	<p>追加資料を配付し、事務局より説明を行った。</p> <p>〔質疑応答〕</p>
副委員長	事務局の案で、重点施策に「学校給食における活用の支援」が掲げられており、これを推進することが重要だと思う一方で、農業者アンケートの結果からも販売方法を直売とされている方が多いことが明白で、そのあたりを計画にどのように落とし込むのか悩む。委員の方々のご意見をいただけるとありがたい。
委員	副委員長が言うように、農業者それぞれで取り組み方は様々である。例えば基本方針／基本施策②『市民が愛する農業の推進』では、地産地消の推進、安全で安心な農業の推進ということに記載しており、ここに「武蔵野市はこのテーマを応援していくんだ」という姿勢を文言に盛り込むことで実効性を高められればと思う。すべてのことを詳細に記載することはできないが、柱立てのもとに取組みの方向性を記しておくことが良い。このあたりの観点で議論していただければと思う。

<p>委員</p>	<p>事務局の案で、基本方針／基本施策①『貴重な市内農地を守る』の下位に「担い手の確保及び担い手同士の連携推進（新規就農者／女性／ボランティア等）」が掲げられているが、見え方によっては農地を守るために農業者がいるように見えてしまう恐れがある。担い手の支援は大事なことなので、これを柱に立てて良いのではないかと思う。さらに、新規就農者のうち、武蔵野市では親元就農者が大多数で、この方々を支援することを明確にすべきではないかと思う。</p> <p>また、農業者アンケートで農業を行っていくうえで困っていることに鳥獣による被害が多く、ぜひ「気候変動に対応した農業経営の支援」に鳥獣害の対策を盛り込んでほしいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>担い手の部分は、そういった見え方があることを考慮して、別の案を考えてもいた。他の意見も含めて、ぜひ検討したい。</p>
<p>委員</p>	<p>農地保全と担い手支援の位置付けは、確かに悩ましいところである。市内農地を守り、利用するとか、市内農地を有効利用しながら保全するとかいうような表現を工夫することによって、その担い手問題もカバーしているというところを、どうにか表現できないかと思う。</p>
<p>副委員長</p>	<p>農地保全について、あくまでも農業者がしっかり管理する農地を保全すべきだと考えており、業としての「農業」をいかに守り承継していけるのかが大事であると思う。計画での見え方は慎重に考えるべきだと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>基本は、農業者の営農経営が継続されて収益を得ることを支援する形が、農業振興政策だと思う。</p> <p>また、武蔵野市の、他の自治体では見られない特徴的なところは、基本方針／基本施策②『市民が愛する農業の推進』で掲げられているように、市民が農業に触れ合うことの推進だと思う。</p> <p>このような観点での意見や、他の意見はあるか。</p>

委員	<p>事務局の案にある「市民が愛する」という文言は、我々が目指しているものは何なんだろうということを考えたときに、農業者にとって愛着があることはもちろんのこと、市民にとっても農地が必要である、存続すべきであることを理解してもらいたい、という思いから盛り込んだ文言である。アンケート結果を見ても、農業者の目線、市民の目線、それぞれが互いに理解することで、農業が承継されるのではと思う。自分たちが暮らすまちに農地が保全されていて、武蔵野市に住んでいて良かったと感じてもらうために、文化として農業が寄与できればと思う。</p>
副委員長	<p>施策／施策の基本的な取組に「農業体験機会の提供／消費者との交流の推進（市民農園→体験農園、見学会）」とあるが、体験農園は農業者の経営の中の一つの手法であって、これを強制することは避けるべきだと思う。少し懸念を感じるので、慎重に考えたい。</p>
委員長	<p>市民が主体的に農業者に協働を求め、一緒に耕作し、販売促進する、といったこととなると良い。例えばオープンスペースとしての農園を市が提供して、市民と農業者が協働する場を作ることで良いのではないかな。</p> <p>また、農福連携の観点で、最近ではユニバーサル農園と称して農林水産省と国土交通省が行っている事業がある。このような協働できる場があると良い。</p>
事務局	<p>市民が農業に関わるという点で、東京都の「地域援農ボランティアの養成事業（東京の青空塾）」を活用して市が支援する取組みはあったが、農業者が目指すものとボランティアがやりたいことの不一致が生じることが多く、なかなか上手くいかなかったようである。</p> <p>ただ、農業者との意見交換会で援農ボランティアが話題にのぼった。市内には大学が複数あり、学生ボランティアを上手く活用できればという話があった。</p>
委員	<p>話が戻るが、先ほど●●委員から鳥獣害の対策を計画に盛り込むべきとのこと、ぜひとも賛同したい。ただ、どの柱に入れるべきなのかは悩ましい。気候変動が</p>

	<p>背景にあるものの、環境保全型農業の推進、農地の多面的機能の発揮（防災機能／景観／都市環境維持）、といったところで生態系を絡めて市における農業の共生みたいなことも考えられる。</p>
委員	<p>東京都は、東京都農作物獣害防止対策事業という名称で、アライグマやハクビシンの捕獲、イノシシやシカに対する猟友会との連携、といったことの補助事業を行っている。このように、農作物に被害を与えないよう防除策を施すことに焦点を当てており、生態系と農業の共生といった観点となると事業の活用が難しくなる可能性がある。稼げる農業の推進という観点で、農作物への被害を抑える、という建付けが良いかもしれない。</p>
事務局	<p>鳥獣害の対策については、ぜひ計画に盛り込むこととたく、よく検討してお示ししたい。</p> <p>この他に、こういった視点を盛り込むべきであるとか、この言葉の使い方は違和感があるとか、細かい部分でも、ご指摘いただけるとありがたい。意見票にて、ぜひお聞かせ願いたい。</p>
委員	<p>「稼げる農業」という表現は、持続的な、持続発展的な、という形容詞を入れると良いと思う。</p> <p>また、「地産地消」と「環境保全型農業」を並列に記載することについて、細かいところを気にする方にとっては持続的農業と環境保全型農業は異なり、並列にすることに違和感を覚える方はいると思う。</p> <p>細かな文言の部分では、「計画の実現に向けて／計画の推進」のうち「東京都や東京都農業会議をはじめとした関係機関等の連携／協力」は、他の文言と合わせて「との連携」として良いと思う。それと、これらは主体が行政であるのかどうか伝わりにくいため、もう少し工夫した文言とすべきかもしれない。</p> <p>基本方針／基本施策（施策の具体的方向）②のうち「市内農業の歴史及び文化の継承（伝統野菜支援含む）」は非常に大事であると思うが、現状がどうであるのか、食農教育の推進といった項目に盛り込むべきだと思う。</p>

事務局	<p>いただいた御意見を踏まえ、盛り込む箇所を検討したいと思います。</p> <p>1点、特に農業者の目線を確認したく、「担い手の確保及び担い手同士の連携推進（新規就農者／女性／ボランティア等）」は、先ほど話にあったように、農業者はそれぞれが経営体としての考えを持っており、ある意味で競争相手でもある中で、これを連携という書きぶりにしてしまうのはいかがなものなのか、ご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>やはりそれぞれの考えがあるものだと思うので、個人的には、連携もするけど、最後は1人の考えをしっかりとってやるという考えである。連携という文言を入れてもいいかとは思いますが、それぞれに考え方があるという前提で、慎重に検討すべきだと思う。</p>
委員長	<p>農業協同組合には、生産部会、青年部会、といったそれぞれのグループがあるが、それとは異なるグループで、例えば技術を協働で開発していくとか、あるいはボランティアを育成するとか、そういう新しい協働の姿を期待しているのかなとも思う。</p>
委員	<p>別の話となるが、前回の委員会で●●委員から、うどの承継について話があった。市の補助金で、伝統野菜であるうどの承継を支援することを進めているところである。うどは、ここで承継がされないと、技術が途絶えてしまう。この危機感を持って進めている。同様に、伝統野菜に限らず、市内の農業者の技術を承継することの支援をしていきたいと考えている。</p>
閉会	

閉会時刻 午後4時36分